

「世界津波の日」高校生サミットに参加 海外の高校生と交流を深める

第70回国連総会本会議（平成27年12月22日）で「世界津波の日」を定める決議が採択され、11月5日が「世界津波の日」となりました。そして、11月25日から26日まで、高知県黒潮町において「世界津波の日」高校生サミット in 黒潮が開催され、日本を含む30か国の高校生（国内参加高校生110名、海外参加高校生246名）が参加しました。本校からも昨年度「サイエンス・アクセス」で防災について研究し、震災から5年目の2016年3月11日に水沢高校震災復興祈念「キャンドルプロジェクト」で中心的に活動した2年生3名が参加しました。高校生サミットでは、津波防災についてのフィールドワークや議論を通して、日本の津波の歴史や防災・減災の取組を学ぶとともに、今後の課題や自国での取組等について分科会で発表しました。最終的には、サミット全体の成果文書として「黒潮宣言」を採択しました。また、26日夜には、二階自民党幹事長を始めとする国会議員や各国の在京大使、尾崎高知県知事等地元の関係者も参加して、外務省主催レセプションが開催されました。



同じ分科会で交流を深めた国内外の高校生



本校同窓生 平野達男議員（右2人目）、二階自民党幹事長（右3人目）レセプションでの記念撮影

参加した生徒3名は、分科会で「東日本大震災 津波被害からの復興と支援を高校生の手で」について水沢高校の考えを英語で発表しました。そしてアクションプランとして、「宮古観光協会主催の防災ツアー「学ぶ防災」と高校生の連携」、「水沢高校キャンドルプロジェクトの継続と発展」、「CD Project (Connecting the Dots Project) の進化」の3つについて提案しました。

参加生徒は「高校生サミットに参加し、国内外の高校生と関わったことで、今までにないたくさんの刺激を受けることができた。世界各国の人とひとつの課題に対して意見を交流するという滅多に出来ない素晴らしい体験が出来た。他国の人も、たとえ英語を上手く話せなくても伝えようとする気持ちをもつことが大切だと感じ、積極的に話しかけることができた。様々な視点で防災について考えるととても良い機会になった。この繋がりを今回だけのものにはせず、これからの防災のためにも世界に目を向け、今回出た意見を実際に行動に移すことが最も重要なことであり、私たち高校生がすべき役割なのではないかと思う。」「自分たちにできる防災とはその記憶を風化させず、次の世代につなげていくことだ。」と感想を述べ、防災への決意を新たにしました。